

認知症新治療薬 「レカネマブ」始めました！

釜下 佳代子
看護科/回復期リハビリ病棟
認知症看護認定看護師



認知症新治療薬「レカネマブ」は、「アルツハイマー型による軽度認知障害（MCI）、および軽度の認知症の進行抑制」の効能・効果で厚生労働省が2023年9月25日に承認し、2023年12月20日に販売されました。日本は超高齢化社会であり、2025年には65歳以上の高齢者の中で5人に1人が認知症になると予想されており、軽度認知障害の方が増えていくなされています。

* 軽度認知障害（MCI）って？

軽度認知障害とは、軽度の認知障害で、認知症ではなく、健常者と認知症の中間にあたるグレーゾーンの段階のことを言います。記憶力や注意力などの低下がみられますが、日常生活に支障をきたさない状態です。

ICD-11（国際疾病分類）では、以下のように定義しています。

- 年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する。
- 本人または家族による物忘れの訴えがある。
- 全般的な認知機能は正常範囲である。
- 日常生活動作は自立している。
- 認知症ではない。

▲引用：ICD-11「軽度認知障害」の診断基準

* レカネマブって？

アルツハイマー型認知症は、脳内のアミロイドβと呼ばれるたんぱく質の異常により、病気を引き起こすと考えられています。そのアミロイドβが脳の中に蓄積され、神経細胞に付着していきます。アミロイドβが貯まることで、細胞の機能が低下し、徐々に神経細胞が減少することで、情報伝達ができなくなります。そして、脳が萎縮し、アルツハイマー型認知症が進んでいきます。「レカネマブ」は、アミロイドβに作用する抗体で、免疫の力を介して、アミロイドβを取り除きます。脳の中のアミロイドβを減少させることで、アルツハイマー型認知症の進行を遅らせることが期待されている薬です。



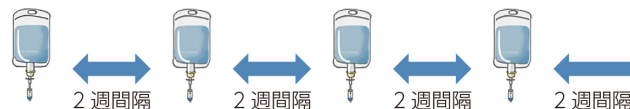
* 誰でも使えるの？

「レカネマブ」の投与対象は「アルツハイマー型による軽度認知障害または軽度の認知症」に限定されています。かかりつけ医や専門外来などの診察および検査の結果、判定されるため、対象外となることもあります。検査は、神経心理検査（MMSE／CDR）、脳MRI、アミロイドPETなどです。

* 治療スケジュール

「レカネマブ」は、約1時間かけて点滴を行う薬です。2週間ごとに通院して投与します。点滴投与期間は18ヶ月間が目安となります。治療開始後には、MRI検査を適宜行い、医師が症状に基づいて、薬の効果、病気の進行具合、副作用の確認などを行っていきます。

副作用としては、頭痛、悪寒、発熱、吐気、嘔吐などの症状があらわれることがあります。また、脳の腫れや出血などの副反応が生じる可能性があるため、MRI検査を定期的に行う必要があります。



* 医療費について

「レカネマブ」は新薬のため高価です

治療によっては、医療費がどれくらいかかるのか気になる方も多いと思います。この治療には高額医療費制度が使えます。高額医療費制度とは、医療機関や窓口で支払ったひと月の自己負担額が上限額を超えた場合、その超えた金額を支給する制度です。「限度額適用認定証」を事前に申請し、認定証を医療機関の窓口提示することで、ひと月の支払額を自己負担限度額まで減らすことができますので、加入している医療保険へ申請してください。

* 相談するには？

軽度認知障害や認知症についてのお問い合わせは、まずかかりつけ医や当院の認知症疾患医療センターなどが窓口になるので、相談してみてください。

今回、認知機能の低下をゆるやかにすることが期待される薬ができましたが、今後は、認知機能の低下を『改善』する薬が開発されることを待ち望んでいます。